

2025 年度 第 3 回学校関係者評価委員会 議事録

日時：2026 年 2 月 28 日（土） 14：00～15：45

場所：本校 7 階研修室

議長：石川委員長

出席者：

- **委員：**赤塚敦子（看護関連業界関係者）、石川幹夫（卒業生）、金子千尋（新任・保護者）、倉本昌幸（新任・医療事務関連業界関係者）、齊藤つばさ（くすり関連業界関係者）、森川雅彦（高等学校関係者）（計 6 名）
- **本校：**川口拓也（校長）、前田律子（副校長）、榊原幸之（事務局長）、石澤雅子（医療秘書科学科長）、川畑亮子（医療事務 IT 科学科長・診療情報管理科学科長）、渋谷大樹（教務委員長）、松田朗（介護福祉科学科長・学生委員長）、伊東由美（看護科学科長）、渡邊明子（看護科副学科長）、松本晋圭（広報室長）、土屋瑠美子（学務課長）、土方雄太（委員会事務局）（計 12 名）
- **委員会事務局：**土屋瑠美子、土方雄太

欠席者：藤井寿和委員（福祉関連業界関係者）、結城久美子（くすり・調剤事務科学科長）、杉本拓朗（キャリアサポートセンター長）

議題等

1. 校長挨拶

- ・ 明日から 3 月を迎え、新年度の準備が佳境に入っている。
- ・ 4 月からの学校教育法改正に伴い、専門学校が「単位制」へ移行する。本校も行政への提出を完了した。
- ・ 5 年に 1 度の第三者評価の義務化に備え、毎年の自己点検を徹底する。
- ・ 短大や大学の募集停止が相次ぐ中、専門学校も学生確保が課題となっている。新設のビジネスコミュニケーション科を含め、留学生の受け入れや多様なルーツを持つ学生の育成に注力する。

2. 前回委員会議事録案の確認

前回（第 2 回）議事録案および総評の内容を確認し、原案通り承認された。

3. 2025 年度第 2 回委員会以降の主な経過報告（資料 2 参照）

各担当者より報告が行われた。（報告の詳細は省略）

質疑応答は別紙のとおり。

4. 2025 年度学校関係者評価報告書の確認（資料 3 参照）

報告書の最終確認を行った。特段の修正なく承認された。

5. 意見交換など

委員から各学科の教育・就職活動の現状、検定取得状況の情報公開等について意見・質問があり、学校側の回答が行われた。

詳細は別紙のとおり。

6. 2026 年度の委員について

- ・任期満了となる委員に対し、次年度の継続を要請し、了承を得た。
- ・次年度よりビジネスコミュニケーション科学科長が委員会構成に加わる。

7. 次回日程、その他

- ・次回は 2026 年 6 月 27 日（土）開催予定。
- ・学校教法改正に伴い、評価委員会の実施回数や時期が変更になる可能性を共有した。

8. 閉会

石川委員長より閉会の挨拶があり、議事を終了した。

別紙

2025 年度 第 3 回学校関係者評価委員会の主な討議内容

次第 3．主な経過報告に関する質疑応答

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
大学病院等の説明会が 2 月から始まるなど就職活動が早期化している。早く動く学生は優秀なのか。	必ずしも成績と連動しない。早期内定後のミスマッチを防ぐため、担任やサポートセンターが面談を重ね、個々の適性を見極めている。条件の良い病院は早く埋まるため、SPI や小論文の準備を早めるよう指導している。

次第 5．意見交換

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
【検定取得状況の情報公開】 検定の合格者数や保有率を一覧化した資料は、他校との比較や自校の強みとして PR に使えるのではないかな。高校側も、どの学校がどの資格をどれだけ取っているかという情報を求めている。	取得率の高さは学生の「頑張りのプロセス」の証明になるため、魅力が伝わる見せ方を検討したい。
【採用側から見た資格の価値】 専門学校生の履歴書は資格欄が埋まっていることが特徴である。採用側は資格の有無だけでなく、取得に向けた努力のプロセスを評価する。がん登録初級者認定などは、入職後の施設基準反映にも繋がるため、積極的に取得してほしい。	ご意見を今後の指導に活かしていく。
【病院見学と学生の意識】 病院見学の目的の周知が必要ではないか。	見学は就職先の選択肢を広げるために実施している。実習とは切り離して考えているが、学生への目的説明をより丁寧に行う。
【留学生受け入れと学校生活の工夫】 来年度から留学生が増加するが、日常生活のルール作りなどで工夫している点はあるか。	留学生のみの学科と、日本人混在の学科がある。選抜機能を働かせて一定レベル以上の学生を確保し、日本語指導を細かく行っている。高田馬場という地域柄、外国人と共に働く・過ごす環境に慣れることは、将来どの業界に進んでもプラスになると捉えている。

各学科からの年度末報告

学 科	報 告 要 旨
医療秘書科	秘書検定準 1 級で全国 4 名しか選考されない日本秘書クラブ会長賞を受賞する学生が出るなど成果をあげた。検定のモチベーション維持のため、2 年次後期の設定を前倒しするカリキュラム改編を検討している。
診療情報管理科・医療事務 IT 科	歴代卒業生の信頼による独自求人が強みとなっている。週 3 日休みや昼食代の安さを重視するなど、学生の価値観が多様化している。
くすり・調剤事務科	登録販売者試験の合格率が向上した。次年度より学科名を「くすり調剤・美容科」に変更し、高校生への訴求力を高める。
介護福祉科	「ウェルビーイング」を目標に掲げ、クラス内の人間関係をを超えて協力し合う体制構築を進めている。ケーススタディ集を完成させ、実習先や母校への成果報告に活用している。
看護科	実習施設の大幅な変更を乗り越えた。専門職としての倫理観や態度の教育に注力している。